

001 健

No.	読書日 2010年	タイトル	著者 出版	表紙	コメント	評価
1	0414- 0422	片眼の猿	道尾秀介 新潮文庫 540円		道尾作品としては「向日葵の咲かない夏」に代表される嫌悪感や気持ち悪さなどが薄まり非常に読みやすい。出だしの千里眼の話や犬の鼻の話がミスリードを誘いストーリー全体の伏線となっている。この本はタイトルがすべて。ストーリーの中で落語の「一つ目の国」の話が引用されているがラストを読み改めてタイトルの意味に納得する作りになっている。主人公は特異な耳を持つ私立探偵三梨でその能力を生かした盗聴を得意としている。三梨はいつも大きなサングラスをしている冬絵に自分と同じ臭いを感じ産業スパイを見つけ出す仕事にスカウトする。そして目星をつけていた男が殺害された様子を盗聴したことから冬絵、三梨を取り巻く仲間たちも事件に巻き込まれてゆく。軽めのハードボイルド風仕立てだが実は深いところもある。	☆ ☆☆
2	0421- 0421	pen 2010年5月1日号 水木しげる 大研究	阪急コミュニ ケーションズ 600円		今年、米寿と画業生活 60 年の節目を迎える水木しげる。貧しかった紙芝居作家、貸本漫画家時代のエピソード、ルーツが詰まった故郷・境港の現地取材、幻の作品まで網羅した大特集。貸本時代をリアルタイムで体験した世代なので実に懐かしいし当時アシスタントをしていた池上遼一や矢口高雄、編集者たちのコメントも興味深い。	☆☆ ☆☆
3	0422- 0424	ソロモンの犬	道尾秀介 文春文庫 610円		秋内、京也、ひろ子、智佳たち大学生 4 人の平凡な夏は、まだ幼い友・陽介の死で破られる。飼犬に引きずられての交通事故だ。だが、現場での友人の不可解な言動に疑問を感じた秋内は何故犬が突然暴走したのか動物生態学に詳しい間宮助教授に相談に行く。犬の習性は興味深く、そのために登場する間宮教授はいい味を出している。犯人は意外というより何だかなあという感じで途中で仕掛ける犯人の罠の結末も納得いかん。帯にあるように誰もが誰かに恋をする青春の苦悩・哀感はある作品。	☆ ☆☆

4	0425-0426	1Q84 BOOK3 <10月-12月>	村上春樹 新潮社 1,995 円 (cacco 蔵書)		BOOK3が果たして出るのかどうか話題になっていた一冊。タイトルの付け方、BOOK1・2の内容から出版は予想していた。今回もネタは抱負で面白く読めるが前回までの話の進展はみられない。詳細の感想は「勝手にチョイス」に掲載。	☆☆ ☆☆
5	0426-0430	理屈が通らねえ	岩井三四二 角川学芸出版 1,890 円 (鶴見図書館)		江戸算法塾「長谷部道場」の二文字厚助は、苦勞して解いた「十字環」の問題に新しい解き方を示したとい謎の算法者を追う旅に出た。この世の中で、算法に関わることだけは、理屈を通さねば気がすまない。それでも、御家人の世界は、理屈が通らないことばかりだ。二文字厚助は、ほとんど嫌になっていた。事件、騒動、銭勘定など行く先々で、でくわす問題事も算法ならば通る理屈もまるく収まるためしなしの悪戦苦闘の珍道中。数学的な興味を引く話がそれほど無いのがこの手の本としては致命的。	☆
6	0501-0506	シャドウ	道尾秀介 創元推理文庫 735 円 (古 300 円)		鳳介の母が亡くなり父の洋一郎と2人だけの暮らしが始まった数日後、幼なじみの亜紀の母親が夫の勤務する医大の研究棟の屋上から飛び降り自殺を図る。そして亜紀が交通事故に遭い、父の洋一郎の不自然な行動…。苦悩の果て小学5年生の鳳介が辿り着く真実。各登場人物の言葉が本心であって真実ではない。いわゆる叙実ミステリー。完全な一人称語りではないところに複雑な謎が交錯する作品で捻りすぎの感もあるが二転三転のどんでん返しまで綿密に計算された作品。	☆ ☆☆
7	0507-0513	サイン会はいかが？	大崎梢 創元推理文庫 693 円		「成風堂書店事件メモ」シリーズの第3弾。中型書店ではめったにないサイン会をめぐる顛末を綴った表題作「サイン会はいかが?」、他人の名を語り本を注文する 人物の意図を探る「取り寄せトラップ」など5つの短編。本屋のエピソード、書店事情などもちりばめられていて本屋に毎日顔を出す自分にとって興味を引く話題も多い。	☆☆

8	0514-0519	晩夏に捧ぐ	大崎梢 創元推理文庫 672 円		「成風堂書店事件メモ」シリーズの長篇ミステリー。成風堂の名コンビが長野の老舗書店の依頼を受け、店に出没するという幽霊について調査をする話。聞き込みの結果、当地で殺された流行作家の事件とからんできて…という展開だが流れがいきまいで結末もたいした事は無い。老舗の書店の描写や 著者の経験勤務を生かした豆知識は面白いのだが。	☆☆
9	0516-0516	ゲゲゲの女房	武良布枝 実業之日本社 1,260 円		NHKの朝ドラを見るのが日課の一つになっているので何気なく購入。漫画家水木しげるの妻が自伝に託してもう一人の「水木しげる」を描いている。漫画にどっぷり浸っていた自分としては作品の生まれた環境、交友、編集者、アシスタントの記述は興味を引く。ドラマを見ていて思うのはお見合いというのは長子社会においては生活のためのパートナーの獲得であり時に恋愛感情を超えた信頼の絆で結ばれることもあるということだ。	☆☆
10	0519-0528	小暮写真館	宮部みゆき 講談社 1,995 円		結婚20周年を記念して両親がマイホームとして購入した家が築33年の中古の写真館だった。ある日、この写真館で撮ったものに霊が写っているという理由で女高生が勝手に写真を返却してゆく。主人公の花菱英一はその謎に乗り出し解明するがそれを機に不思議な写真が彼の下に持ち込まれることになる。調査をする中で明らかになる家族のこと、友達、出会った人々の人生に触れ主人公が成長してゆく物語。恋人役は同級生から調査の過程で知り合った年上の事務員に移っていくが話の中の年齢設定と描かれているイメージがマッチしないのが惜しい。	☆☆
11	0520-0525	聖夜の朝	黛まどか 毎日新聞社 900 円 (古480円)		自分の俳句は歳時記でいうと主に時候、天文、地理、生活のカテゴリーの中から季語を選んで詠む身辺俳句が多い。心境、家族、恋愛を詠むのを最も苦手としているのでちょっと参考に。 著者は清楚な感じの美人俳人であるが本の内容から恋愛に対しては奔放な性格なのが意外。俳句は現代感覚に溢れているのが良い。	☆☆

12	0521-0525	そうだったのか！中国	池上彰 集英社文庫 760 円		池上彰は2世代前の「週刊こどもニュース」のお父さん役の頃から知っているがその頃から分かりやすく歯切れのいい解説に好感を持っていた。本書は外交上日本の報道陣が敢えて書かない部分や中国政府の都合の悪い部分、過去の歴史から最近の話題まで日本・世界の関わりを簡潔に解説。	☆☆☆
13	0521-0521	ZARD&坂井泉水ストーリー	グループ future 飛天出版 800 円 (古 400 円)		音楽に興味のない自分がDGにお薦めとして掲載したのがZARDのCDアルバム「永遠」。TVから聞こえてくる曲に惹かれて以来、隠れファンになっていた坂井泉水も夭折。本書は Cacco 氏に頼まれたミステルの載っている古い雑誌を探している時に見かけて買ったもの。	☆☆☆
14	0522-0524	そうだったのか！アメリカ	池上彰 集英社文庫 740 円		日本にとってアメリカは特殊で密接な関係にある。建国から歴史の浅い大国の特徴、成り立ち、戦略などを分かりやすくまとめ、自由、豊かなイメージに象徴されるアメリカの暗黒面にも著者独自の視点でアメリカの抱える問題点に言及しアメリカの好きなところ、嫌いなどところと分かりやすい言葉で意見を述べている。	☆☆☆
15	0525-0527	1テーマ 5分でわかる 世界の ニュースの 基礎知識	池上彰 小学館 1,470 円		最近、「ニュースがよくわかる○○○」シリーズの特番の司会&解説を行っている池上彰が最新のニュースをわかりやすく本にしたもの。新聞は現状を報道するのが最優先で過去からの経緯を端折ることも多いシタブーにより書かないこともあるがその辺の事情もズバッと解説しているのが為になるし心地よい。	☆☆☆
16	0528-0529	キング&クイーン	柳広司 講談社 1,680 円		ある事件をきっかけに警察官を辞めた元SPの冬木安奈。六本木のバー「ダズン」で働いていた彼女に、行方をくらましていた元チェス世界王者の“天才”アンディ・ウォーカーの警護依頼が無い込む。依頼者の宋蓮花は、「アメリカ合衆国大統領に狙われている」というが…。柳広司としては珍しく本歌取りのような元ネタの無い書き下ろし。おしゃれな作品だがいつもの深さに欠けラストのミスリードの種明かしはちょっとズルイかも。	☆☆☆